

平成 27 年度 第 7 回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 平成 27 年 10 月 26 日 午後 4 時 30 分から

場所 宍粟市役所 庁議室

第7回（定例）宍粟市教育委員会会議録

1 開会・閉会の年月日時及び場所

平成27年10月26日（月） 午後4時30分 ～ 午後5時52分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6

宍粟市役所 庁議室

2 会議に出席した者の職氏名

教育委員	西岡章寿	教育長	杉本健三	委員
	弓削ルリコ	委員	田中真人	委員
	金本一二	委員		
事務局	藤原卓郎	教育部長	榎谷米男	教育部次長
	澤田志保	教育総務課長	山本哲史	学校教育課副課長
	田村純司	こども未来課長	田路正幸	社会教育課長
	菊元 学	学校給食センター所長	橋本 徹	教育総務課副課長

3 開会

西岡教育長が開会した。

4 会議の成立宣言

出席者数5名となり、西岡教育長が会議の成立を宣言した。

5 会議録署名委員の指名

(1) 署名委員は、西岡教育長の指名により、次のとおり決定された。

弓削委員

6 前回会議録の承認

第6回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件

前回の定例教育委員会における協議事項、報告事項の会議録について、教育総務課 澤田課長が説明し、承認された。

7 教育長報告

次の3点について西岡教育長が報告した。

(1) 学校規模適性化・幼保一元化推進状況について

学校規模適正化については、一宮北中学校区では10月7日に第11回協議会が開催され、校章デザインの承認と校歌の制作状況が確認された。12月開催の協議会では校歌・閉会式日程を確認予定となっている。一宮南中学校区では、10月2日に第3回協議会が開催され、6つの部会に分かれ協議を進めることを決定し、11月開催の協議会では校名公募等について協議予定となっている。

幼保一元化については、波賀中学校区では、10月16日に第8回地域の委員会が開催され、今後の進め方などを協議し、11月に認定こども園「ちくさ杉の子こども園」の視察を行うこととなった。一宮北中学校区では、10月15日に第4回地域の委員会が開催され、9月29日実施のたつの市内の2つの認定こども園視察の感想等と協議され、同じく「ちくさ杉の子こども園」の視察を行うこととなった。千種中学校区では、9月29日に第1回「ちくさ杉の子こども園運営協議会」が開催され、地域、保護者、運営主体、宍粟市の4者の代表委員が運営等について協議された。

(2) 工事の進捗状況について

教育研修所の整備計画について、改修工事の設計に入っており後ほど報告させていただく。まちづくり推進部が担当している千種B&G海洋センタープール建設工事の起工式が10月15日に市議会議員、地元自治会長等出席のなか行われた。今後、28年6月の完成をめざして工事を進めていく。なお、請負業者は市内の建設会社で契約金額は4億4,000万円余りである。

(3) その他

播磨圏域連携中枢都市圏7市8町図書館相互利用の開始について、圏域内36館の図書館の334万冊の図書相互利用できることになった。詳細は後ほど報告させていただく。以上である。

8 議事

第6号議案「平成28年度 宍粟市立保育所・幼稚園職員異動方針及び職員配置基準について」

平成28年度 宍粟市立保育所・幼稚園職員の人事異動を実施するにあたり、異動方針及び配置基準を決定する必要があることを澤田教育総務課長が説明した。

審議の結果、全員「異議なし」とし決定された。

9 協議報告事項

(1) 学校規模適正化・幼保一元化推進状況について

資料1「学校規模適正化・幼保一元化推進の状況」により、学校規模適正化については、教育総務課 澤田課長、幼保一元化については、こども未来課 田村課長が報告した。

(2) 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果公表について

資料2「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について」により、学校教育課 山本副課長が報告した。

(3) 教育研修所整備計画について

資料3「教育研修所整備計画概要図」により、教育部 藤原部長が報告した。

(4) 認定こども園整備の考え方（案）について

資料4「宍粟市幼保一元化推進計画に係る認定こども園整備の考え方について（案）」「宍粟市幼保一元化推進計画に係る施設再編案」により、こども未来課 田村課長が報告した。

(5) 宍粟市立図書館の開館延長に伴う利用状況について

資料5「平成27年度4月～9月金曜日 市立図書館利用状況」「宍粟市立図書館 平成26年度・27年度 時間別利用状況比較表」により、社会教育課 田路課長が報告した。

(6) 宍粟市美術展審査結果について

資料6「第11回宍粟市美術展入賞者」により、社会教育課 田路課長が報告した。

(7) 西播磨地区人権教育実践発表会（学校教育の部）について

資料7「人権教育実践発表会（学校教育の部：本発表）開催要項」により、社会教育課 田路課長が報告した。

(8) 学校給食における異物混入対応について

資料8「議員協議会よりの意見への対応について」「山崎学校給食センター食器箒購入 概要」により、学校給食センター 菊元所長が報告した。

(9) 千種B&G海洋センタープール建設工事概要について

資料9「千種B&G海洋センタープール建設工事概要」により、教育総務課 澤田課長が報告した。

(10) その他

播磨圏域連携中枢都市圏7市8町図書館相互利用の開始について、資料10「はりま圏域7市8町図書館が利用できます ちらし」により、社会教育課 田路課長、宍粟市人口ビジョン（案）・地域創生総合戦略（案）について、資料11「宍粟市人口ビジョン（案）」「宍粟市地域創生総合戦略（案）」により、教育総務課 澤田課長が報告した。

委員の主な意見及び事務局の説明

（杉本委員）

全国学力・学習状況調査の結果について、小学校6年生の国語、算数は、全国や兵庫県と比べ市の結果は低くでている。検討委員には十分な分析後、調査結果を作成いただき、家庭や地域への協力依頼事項については、具体的でわかりやすい記載をお願いしたい。

表中、くもの巣状グラフの場合、比較数値が接近時は、見えにくいグラフとなるので、棒グラフ表示の検討等、わかりやすい情報提供が出来るよう工夫をお願いしたい。

(学校教育課副課長)

検討委員会からは、特にわかりやすい記載を行い、家庭等へ情報提供すると聞いている。また、広報しそ 12 月号での調査結果公表にあたり、別途、学校には啓発資料を配布し、授業改善や学習状況改善に役立てる予定である。

グラフは、掲載スペースも検討の上、より解りやすいグラフにしたいと考えている。

(田中委員)

全国学力・学習状況調査の結果について、表中の棒グラフ①の数値の単位は、点数か%か。また、何を意図するグラフなのかを教えてください。

(学校教育課副課長)

数値の単位は%であり、わかりやすいように修正する。

棒グラフ①の意図は、小学 6 年生で、家で計画的に勉強していると答えた児童や生徒は、問題正答率が 60% 超えであるが、全く計画的でないで答えた児童等は、正答率が 40% 越えに留まり、生活習慣と問題正答率の関係を表すグラフとなっている。

(弓削委員)

全国学力・学習状況調査の結果について、保護者が一番関心を寄せる事が、学習環境と問題正答率の関係であるが、もう少し詳しく説明いただきたい。

(学校教育課副課長)

本調査は、国語、算数、理科の 3 教科の学力調査に加え、生徒、児童には生活状況調査のアンケートも実施し、どのような生活習慣で過ごしているか、そして、問題正答率に対して生活習慣の関連はどうなっているか等について、クロス分析も行っている。

(杉本委員)

全国学力・学習状況調査の結果について、「3 児童生徒の学習・生活習慣と学力との関係」項目では、学習習慣と学力の関係として表せていないとも感じるが、説明をいただきたい。

また、家庭で保護者が学力向上に必要とすることと、学校で教員が学力向上に必要とすることでは、違う視点が必要と思われるので、その点も踏まえ広報用資料の作成を願いたい。

(学校教育課副課長)

生活状況調査の設問は約 70 問あり、本日資料では、正答率において顕著にその差がわかる設問のグラフを掲載している。広報しそ掲載時に、どの設問を掲載するかは、現在、検討委員会で分析中であり、この設問掲載は例示としてお考えいただきたい。

広報しそ掲載時には、学力向上について、その視点の違いも考慮しながら広報用資料を作成したい。

(田中委員)

教育研修所整備計画について、2 階に予定の美術作品・民具資料の作業スペースや文化財整理作業スペースの稼働予定、文化財品の保安対策を教えてください。

隣接の旧野尻幼稚園を、新たに地域で地域づくり拠点として使用予定と聞くが、その状況等、説明いただきたい。

(社会教育課長)

市内で遺跡発掘調査の出土資料、農工民具資料が分散保管の状態にあるなか、教育研修所整備事業として、旧野原小研修所2階は出土品等の保管整理や展示施設として使用できるよう整備予定である。文化財整理作業スペースの稼働としては、期間を区切って作業を行う予定としている。

保安対策については、今後、調整していく。

(教育部長)

旧野尻幼稚園は、財産上、教育財産として管理しており、目的外使用許可申請にも基づくものである。10月27日、開所予定ときいている。地域づくり拠点施設として、施設管理者は、使用主体となる団体だけになるのかも含めて、現在調整中である。

(教育長)

地域づくり拠点では、土曜日や日曜日の見学者に、地域づくり活動成果の品である、ふるさと産品等が提供できないか、検討中と聞いている。

(弓削委員)

先日、姫路市好古園を訪れる機会があり感じたことだが、文化財資料展示施設として一定の成果を収めるには、文化財展示に合わせ説明が必要であると再認識した。展示にあたり来場者へ積極的なアプローチが重要と考えるが、計画ではどのように考えておられるのか説明いただきたい。

(社会教育課長)

旧野原小2階では、文化財、美術作品・民具資料の保存及び整理作業を主に考えており、整理後、主要なものについては、山崎町内の展示施設等での企画展示等を考えている。

(杉本委員)

幼保一元化推進計画に係る認定こども園整備の考え方について、整理後の記載では、幼保連携型認定こども園をめざすとしている。最終のめざす姿としてはいいと思うが、設立に向けての調整段階では、民間の保育園の考え方にも耳を傾けながら対応をお願いしたい。

公立幼稚園の廃園に向けた協議という記載では、市民感覚で気持ちが和らぐ表現としては、できれば、幼稚園では閉園という表現を使っていたきたい。

(こども未来課長)

全国的には幼保連携型認定こども園に移行する園も多く、市方針として、幼保連携型として公立の幼稚園を継承していくという方向であり、今後も民間保育園と協議しながら進めたいと考える。

記載にあたっては、閉園という表現に変えていく。

(金本委員)

今後、幼保連携型認定こども園の設立に向けて協議が進むなか、ちくさ杉の子こども園と同様に公私連携型を希望する認定こども園が増えてくると思うが、予算的な対応もあり、適切な執行ができるよう、認定こども園の設立に向けて進め方を検討いただきたいと思う。

(こども未来課長)

山崎町内には私立保育所も多くあり、これまでの認定こども園設置に向けた協議でも、各保育所の歴史や保育方針についての意見交換のなかで、公私連携型では無く、例えば4分の1の民間負担を行うなど、民間主導による幼保連携型認定こども園を希望する保育所もあるのではないかと考えられ、今後、調整しながら進めていきたいと考える。

(田中委員)

宍粟市人口ビジョン(案)と地域創生総合戦略(案)について、作成はどのような方が作成されたのかお聞きしたい。

(教育総務課長)

市では地域戦略委員会という組織を立ち上げ、自治基本条例の主旨に基づき、各種団体所属の市民委員以外でも、公募の市民委員や、市議会にも意見を求めたりしながらまとめ上げ作成したと確認している。

(弓削委員)

宍粟市合併10周年記念式典あいさつに、西播磨テクノと宍粟市の間が高速道路で、近日、結ばれるという話があったが、どのようなものか教えていただきたい。

(教育部次長)

播磨自動車道と中国自動車道については、中国道旧検察所のところでジャンクションが完成し、高速道が結ばれることになる。高速道として新たに延長新設される区間は約10kmで、中国道における近隣のインターチェンジは山崎インターと佐用インターになると聞いている。

10 次回会議の招集について

平成27年11月16日(月)午後3時30分から、平成27年度第8回宍粟市教育委員会を宍粟市役所403会議室で開催すると決定した。

11 閉会

杉本委員が閉会した。

以上 午後5時52分終了